



函館市議会議員 無所属 荒木あけみ ニュースレター

第 13-14 合併号 / 2018 年 1 月 15 日 / 発行責任者 荒木明美

荒木あけみ、2018 年も市民目線で進みます！

荒木あけみ、函館市議会議員として今年の 5 月からは 4 年目に入ります。昨年も、年 4 回の市議会定例会で毎回一般質問(60 分)を行いました。取り上げるテーマはさまざまなので、すぐ結果が見えるもの、時間がかかるもの、色々あります。質問をするたびにテーマが増えていき、皿回しの皿がどんどん増えている感じがしますが「質問して終わり」ではなく、その経過を観察し追跡して参ります。今年も市民の皆様の声をお届けるべく、一般質問とその報告(荒木あけみと語る会)、そして日々の議員活動に邁進して参ります。

毎年 1 月のニュースレターに書いておりますが、公職選挙法により議員は年賀状、寒中見舞等のあいさつ状を出すことが禁じられております。それにより、新年のご挨拶をお送りできませんこと、ご理解いただけますようお願い申し上げます。但し、頂戴した年賀状に対して自筆で答礼することは禁じられておりませんので、頂きましたら、一枚ずつ直筆で返信させていただきます。

今年は、任期最後の 1 年となります。これまでと変わらず、投票いただいた方々に荒木あけみに投じて良かったと感じていただけるよう積み重ねて参ります。函館市が“生き残る街”になるよう皆様と考えていきます。ご意見、ご指導、そしてご支援を今後共よろしく願いいたします。



調査を進めると事実近づく！？

12 月議会で「疲れ、傷つく子どもへの支援」というテーマで質問を行いました。前半は「疲れている子ども」。昨今のニュースで“腰痛のこどもが増えている(ランドセルや通学鞆が重いため)”が取り上げられています。我が家も中学生はリュックが壊れる程重かったり、小学生も体重の 10%を優に超えるランドセルを背負っています。疲れの原因はここにアリと多方面から調査を進めました。その中である校長先生と話した時、原因は一つではないのでは、携帯・スマホを夜遅くまで・長時間使っている弊害も大きい、という話題になりました。「確かに！」と思いその方面の調査を始め、本質問の後半は「メディア漬け」について取り上げました。(函館市の携帯・スマホの所有率：小 6 で 61.9%。中 3 で 80.0%。日常的に 3 時間以上使用する率は小 6 で 8.3%。中 3 で 23.4%。急速に子どもたちのメディアとの接触が進んでいることをご存知ですか。)

このように問題意識を持って調査していると、本質は別にあるのではという局面に立つことが昔からあります。市場調査業界で 2 社目に働いた会社名は Research Fact(リサーチ・ファクト)。まさに“事実を調査する”。これは市議になっても続いており、熱い気持ちを持ちつつ、冷静に事実を調べるという姿勢が基本になっています。久しぶりにその経験をして、初心忘るべからずを思い出したのでした。



前職時代、約二十年前?



荒木あけみ 一般質問 (9/19 10回目)

9月19日(火) 15:50~16:50、大綱3点について質問。
詳細は：検索サイトで「函館市議会議事録」を入力してください。



大綱 1 公園用地の管理と今後

荒木：開発行為に伴い帰属される小規模な公園や、現在の未整備用地を公園にすることについて、市は必要があると考えているのか？

荒木の視点⇒市に帰属された未整備公園用地は116か所。今後の整備・維持管理に費用対効果の発想が必要では。

土木部：環境保全、災害防止等開発区域内の住民に必要かつ有効で貴重なオープンスペース。自転車等を使用しての移動が制限される幼児や小学生(低学年)にとって身近で安全に遊べる場所として市は必要なものと認識。しかし、他都市で都市公園等の再整備や機能転換、統廃合等様々な取り組み事例があるので今後の公園の在り方等については要検討。

大綱 2 障がい者の外出支援

荒木：港祭りへ車イスで来た時の対応として。周辺施設の協力で合計9か所の多目的トイレが利用可能とのことだが、利用可能な多目的トイレの周知はどのように行っているのか。また、仮設の多目的トイレを一つでも設置することはできないのか。

荒木の視点⇒障がいのある市民・観光客がイベントに来ることを想定した対応になっているのか。

観光部：ワッシュョイはこだてで利用可能な多目的トイレは基本的に参加者用。観覧者の利用も可能なので今後ホームページで周知や配布プログラムへの掲載等を実行委員会で検討したい。仮設の多目的トイレは通常の仮設トイレの約10倍の設置スペースが必要。場所の確保が難しく現状は周辺施設等に協力いただいているが、利用状況等も見ながらトイレ設置の可能性を実行委員会で検討したい。

大綱 3 非常時・災害時の情報伝達手段

荒木：東日本大震災や熊本地震では、停電や水没、流出といった防災行政無線の被害により、住民への情報伝達に支障が生じた事例があった。災害時の情報伝達手段が被害にあったときのリカバリー手段として、どのような対策を講じているのか。

荒木の視点⇒危機管理のリスク管理が考えられているか。

総務部：旧市域の防災行政無線には放送設備を本庁舎、消防本部、総合保健センターに設置、東部4支所管内も各支所、各地域消防署と消防本部に設置。これらは非常用電源を備え、屋外拡声器に非常用バッテリーを内蔵など災害・停電等の情報伝達機能を確保。本庁舎設置のJアラート、Lアラートも非常用電源を備え、国や道との通信を衛星回線とJG WANの2回線での運用等対策をしている。

大綱 4 小学生の自由研究

荒木：市外の児童への情報提供について。夏休みに子連れで東京から里帰りしているママから聞いた話。1ヶ月近く函館にいたので、小学生の子どもに函館を題材とした自由研究をさせたいと考えたが情報収集が困難だったとのこと。自由研究に関する疑問を問い合わせる統一的な窓口はあるのか。

荒木の視点⇒函館がテーマの自由研究を市外の小学校で発表すること=小さな観光大使の役割を担うのでは。

教育委員会：自由研究は、児童自身の興味・関心に基づいて其々が自由に設定。進める上で生ずる課題や疑問は様々な内容が考えられるため統一的問合せ窓口の設置は難しいが、中央図書館では自由研究等でよく利用されているテーマを児童にもわかりやすい簡単な手引書を作成し、図書館での調べ方や本のリスト等を案内している。教育委員会も問合せが入った際はアドバイスをしたい。

荒木あけみ 一般質問 (12/14 11 回目)

12月14日(木)10:00~11:00、大綱3点について質問。

詳細は：検索サイトで「函館市議会議事録」を入力してください。



大綱 1 生活保護の現状と今後

荒木：ケースワーカーによる対応の平準化や資質向上が重要と考えているがどのように対応しているか、また外部組織（民生委員、町会、ハローワーク、病院、介護施設、警察、児相など）との連携について、より意味あるものへ充実させるため何が必要と考えているか。

荒木の視点⇒社会が複雑化し、保護受給者が抱える問題が多様化。生活保護に関わる職員の課題は。

保健福祉部：ケースワーカーには通年での職員研修の他、国や道が主催する研修会等に積極的に参加させ、資質の向上を図っている。外部組織との連携は具体的な事案を通じて被保護者の抱える問題に向き合い、お互い顔と名前の分かる信頼関係を築くことが重要。

大綱 2 外国人観光客のニーズ把握と課題

荒木：昨年実施した函館市観光動向調査における外国人観光客の調査結果について、外国人観光客の把握、ひいては誘致にどのように活用するのか。

荒木の視点⇒調査結果をどう分析し、どう活用するのかを想定した調査設計になっているのか。

観光部：結果からは、国籍や性別等の属性毎の訪問動機、嗜好、移動手段、滞在日数、観光消費額等を把握可能。訪問動機、嗜好等は其々の国や地域対象のプロモーションで活用し、移動手段等では外国人観光客の動線を把握し、重点的プロモーションを行う観光周遊ルートを選定や新構築、観光消費額ではターゲット層の選定、経済効果の算出等に活用。

大綱 3 疲れ、傷つく子どもへの支援（疲れている子ども）

荒木：ランドセル・通学鞆の重さについて。学校統廃合が進み、学校までの距離がのびることで通学時間が長くなる。生徒が増えると学校の余裕教室が減り、学習用具の保管場所が少なくなる。負担が増す子どもたちが増える。対処するなら統廃合が終わる前の今がよい時期とを感じるがどのように対処するのか。

荒木の視点⇒児童生徒の鞆の重さは、全国的な問題となっている。市の認識と今後の対応を確認したい。

教育委員会：絵の具セットや習字セット等日常的に持ち帰る必要のない学習用具は教室内の保管棚や余裕教室のロッカー、特別教室等に保管、又は私物管理を習慣づけるため都度持ち帰る場合等ある。統廃合に伴い余裕教室が少なくなる学校は各学校の実態に合わせて荷物の保管方法を定める。登下校時の負担は各学校で個人差等を踏まえ、保護者の協力を得ながら丁寧な対応が必要と考える。

大綱 3 疲れ、傷つく子どもへの支援（傷つく子ども）

荒木：函館性暴力被害防止対策協議会における小学生に対する予防教育として、CAPプログラムがある。CAPはこれまでも市内小中学校でも行われてきたが、協議会を通じたCAPの取り組みと今後について伺う。

荒木の視点⇒予防教育には子どもの不安を減らす、被害の影響を最小限に留める、地域の安全が高まる、予防は事件発生にかかるコストより安いといったメリットがある。

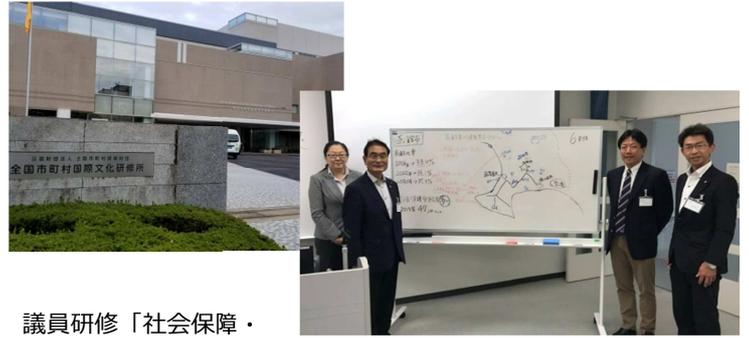
子ども未来部：子どもへの予防教育は大変重要。小学生のCAPプログラムは子どもが性暴力やいじめ等様々な暴力から自分の心と身体を守るための具体的方法を伝えるもので非常に有効。今年度は市内3校で試行的に実施。来年度も実施を検討。市内小学校のすべての子どもたちが少なくとも在学中に1回CAPを受けられるよう取り組みたい。

未来へつなぐ荒木あけみネット掲載写真より ~Facebook ページ~

ともだち食堂開始
(8/5)



※荒木関わった2つ目のこども食堂。休日の小学校家庭科室で実施が可能に。



議員研修「社会保障・社会福祉コース」全国市町村国際文化研修所(滋賀県)(10/16-20)



荒木あけみと語る会(議員活動報告会)
函館朝市ひろば (7/29)



民生常任委員会行政視察
(横浜市・浜松市) (11/6-8)



大沼グレートラン・ウォーク参加
初ランで、半周 6.3km 完走 (10/15)



荒木あけみと語る会(議員活動報告会) 亀田福祉センター (10/29)



五稜星の夢
電球設置作業
(11/19)

最後までお読みくださり、ありがとうございます。

荒木あけみ後援会は、ニュースレターの封入・封緘作業等、ボランティアの方々に支えられております。発送作業や事務作業などお手伝いいただける方は、梓下の連絡先までお知らせください。1~2時間のお手伝い、自宅での作業など色々な関わり方があります。よろしくお願いいたします！

荒木あけみと語る会(議員活動報告会)については、同封の別紙をご覧ください。

ニュースレターの感想、市政へのご意見などお聞かせください！

郵送の方は → 〒040-0035 函館市松風町 17-10 未来へつなぐ荒木あけみネット

FAX の方は → 0138 (76) 3321

メールの方は → araki.akemi@gmail.com

荒木あけみホームページ : <http://www.arakiakemi.jp/>

未来へつなぐ荒木あけみネット Facebook ページ : <https://www.facebook.com/ARAKIAKEMInet>